

口腔の役割

猪も七代続けば豕（いのこ）になる

猪（イノシシ）はヒトと同じように雑食性で、山林の植物の根や芋などの地下茎を掘り起こして食べたり、ドングリやタケノコ、キノコ、昆虫やヘビ、カエルなどの小動物を食べます。そのため下顎の前歯はシャベルのような形をしています。上下の犬歯の牙はナイフを立てたように顔から飛び出し（これで猛突進して来られたら、たまったものではありません）、小白歯（しょうきゅうし：奥歯の前方）の形は肉を切るのに適し、大白歯（だいきゅうし：奥歯の後方）の形は噛み砕くのに適しています。野山を駆け回るため上半身はたくましく、水を飲んだり、地面を掘るのに都合が良く、横顔は長く合理的な特徴をしています。



イノシシの頭蓋骨(埼玉県歯科医師会)

「家畜化すると“短頭化”しやすい」といわれますが、猪はその典型で、意外にも餌付けがしやすく、人間に飼い馴らされたため、横顔が短く、顎の小さな寸詰まりのブタになりました。オオカミも同様、人間によって飼い馴らされてイヌになりました。これは魚にも当てはまります。天然の鮎に比べ、養殖の鮎は頭が短く、丸い形をしています。



イノシシの下顎（オス）

猪は雑食性のため、あらゆる種類の歯が揃った完璧な動物です。あたかも器用にシャベルやナイフ、フォークで捕食し、粉砕機で細かく砕き、すりこぎ・すり鉢ですりつぶして飲み込んでいるかのようです。

話はかわりますが、二十年以上も前、ナイフやカッターナイフで鉛筆を削れない若者が増えていると聞いたことがあります。ところが今は缶切りで缶詰を開けられない、栓抜きなどの道具を使ったことが無い人達が増えているのだそうです。

「猪も七代続けば豕（いのこ＝豚）になる」ということわざがありますが、本来は「変わらないように見えても、長い年月の間には、それなりに変化がある」や「こどもの教育は長い目で見ることが大切」など、良い意味で使われなければなりません。今の世の中は便利な物であふれていますが、とても上手に道具を使いこなしている猪を見習い、たとえ七代先であっても、日本人は手先が器用であり続けて欲しいと願います。

【歯科口腔外科診療部長 今井 正之】

